

短 報

富山県におけるハキリバチ類の追加記録\*

町田 禎之<sup>1)</sup>, 石黒 友一<sup>2)</sup>, 桶川 勝功<sup>3)</sup>, 根来 尚<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> (株)建設環境研究所 東北支社 技術部

983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル6階

<sup>2)</sup> 富山県立中央農業高等学校

930-1281 富山県富山市東福沢2

<sup>3)</sup> 国土交通省 北陸地方整備局 黒部河川事務所

938-0042 富山県黒部市天神新173

<sup>4)</sup> 929-0345 石川県河北郡津幡町太田ヌ38-9

Additional notes on the leaf-cutting bees  
in Toyama Prefecture

Yoshiyuki Machita<sup>1)</sup>, Tomokazu Ishikuro<sup>2)</sup>,  
Katsunori Okegawa<sup>3)</sup> and Hisashi Negoro<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> Engineering Department, Sendai Branch, Civil  
Engineering and Eco-Technology Consultants Co.,  
Ltd. 4-3-10, Tsutsujigaoka, Miyagino-ku, Sendai-shi,  
Miyagi 983-0852, Japan

<sup>2)</sup> Toyama Prefectural Central Agricultural High School 2,  
Higashifukuzawa, Toyama-shi, Toyama 930-1281, Japan

<sup>3)</sup> Ministry of Land, Infrastructure, Transport and  
Tourism Kurobe Office of River 173, Tenjinshin,  
Kurobe-shi, Toyama 938-0042, Japan

<sup>4)</sup> 38-9 Nu, Ohta, Tsubata-machi, Ishikawa 929-0345, Japan

はじめに

富山県では、ハナバチ類(ハチ目ミツバチ上科のうち、幼虫餌として花粉・花蜜を利用するグループ)の研究が進んでおり、本州の他県と比べても分布状況がよく解明されている(根来, 2014)。ハナバチ類のなかでも大型種が多く含まれるハキリバチ科(Megachilidae)は、小型種が多く含まれる他の科と比べて、分布状況の解明率が高いと考えられる。

富山県では、ハキリバチ科は2014年までに4属25種が記録されている(根来, 2014)。筆者の一人、町田は富山県東部を流れる一級河川の黒部川において2016年に行った河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類等調査)で、富

山県初記録となる種と、記録が5例目となる種を採集した。希少な記録となることからここで報告する。

室田忠男氏には、多数の別刷をお送りいただき、福井県でのキバラハキリバチの様子をお教えいただいた、お礼申し上げます。

採集記録および状況

1. キバラハキリバチ *Megachile xanthothrix* Yasumatsu & Hirashima, 1964

確認状況: 1♂ (2016年8月1日) 黒部市沓掛。

高水敷に生育するクズに訪花・巡回している個体を採集。

1♀ (2016年8月2日採集) 下新川郡入善町墓ノ木。

高水敷に生育するクズの花で花粉・花蜜採餌している個体を採集。

キバラハキリバチは富山県では初記録となる。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧(NT)とされている体長15~17 mmの中型種で、成虫は夏に出現する(長瀬, 2014a; 環境省, 2015)。おもに河川敷や海浜周辺に生息し、砂地に営巣することが知られている(前田, 2014; 長瀬, 2014a)。

西日本を中心に局所的に分布する南方系の種で、太平洋側における従来の分布北限は静岡県と伊豆諸島であったが、2014年には東京と神奈川県まで北上したという(斉藤, 2015; 長瀬, 2015)。一方、日本海側では2012年に福井県で発見され、その後、多産するようになったという(室田, 2014)。

今回、黒部川ではおよそ7.7 km離れた2箇所で、それぞれ1個体が確認されており、昨年までに複数産地が存在したものと推測される。黒部川には花粉・花蜜源や営巣材料となるクズが多く繁茂しており、今後も継続して生息するものと予想される。

なお、標本は富山市科学博物館に寄贈・保管する予定である。

2. クズハキリバチ *Megachile pseudomonticola* Hedicke, 1925

確認状況: 1♀ (2016年8月2日目撃) 黒部市宇奈月町舟見。

高水敷に生育するクズで花粉・花蜜採餌している個体を目撃。その後、同所のクズで営巣材料となる葉を切断するようになり、葉片を運搬する個体を追跡して、営巣場所がコゴメヤナギの枝の空洞であることを確認。

クズハキリバチは、富山県では富山市呉羽山(1995)、

\* 富山市科学博物館研究業績第519号

富山市城山 (1993, 1995), 庄川町庄川河川敷 (1997) の計3箇所記録されている (根来, 2014)。

本州 (青森県) ~九州, 屋久島まで広く分布する体長 17~20 mm の大型種であるが, 近年, 全国的に減少しており, 環境省のレッドリストでは情報不足 (DD) とされている。成虫は夏に出現し, 老木の洞や竹筒, カミキリの脱出抗などに営巣する (長瀬, 2014b; 環境省, 2015)。

本種は, キバラハキリバチと同様にクズに訪花していることが確認されたが, クズの葉を営巣材料としていることも確認された。コゴメヤナギの大木の枝の空洞を営巣場所とする例は, 栃木県でも確認されている (片山, 2004)。



図1 キバラハキリバチ標本 (上: ♀, 下: ♂)。

以上のように, 河川水辺の国勢調査 (昆虫類調査は10年に1回の実施) において希少なハナバチ類2種が採集され, 特にキバラハキリバチについては日本海側における分布北上の過程が記録できたことで, 大変貴重なデータが蓄積されたと評価できる。今後も河川水辺の国勢調査が継続されることで, 昆虫類の分布状況の変化が把握できると考えられる。



図2 クズハキリバチの葉片採集痕。

### 概要

2016年8月に, 富山県東部を流れる一級河川の黒部川で実施した河川水辺の国勢調査において, キバラハキリバチ (1♀1♂/2地点) とクズハキリバチ (1♀/1地点) が確認された。キバラハキリバチは富山県では初記録, クズハキリバチは5例目の記録となる。両種とも黒部川の高水敷に繁茂するクズを利用 (キバラハキリバチは訪花, クズハキリバチは訪花と葉片採集) していたもので, クズハキリバチでは営巣場所も確認された。

### 文献

- 環境省, 2015. レッドデータブック2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 5 昆虫類, 246pp. ぎょうせい。
- 片山栄助, 2004. クズハキリバチの営巣習性,特に育房葉片の加工と接着の状況について. 昆虫ニューシリーズ, 7(1): 1-10.
- 前田泰生, 2014. キバラハキリバチ. 改定しまねレッドデータブック2014動物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生動物- : 136. 島根県環境生活部自然環境課。
- 室田忠男, 2014. 福井県蜂類分布資料. あられがこ, (52) : 4-12.
- 長瀬博彦, 2015. キバラハキリバチ類2種の分布記録. つねきばち, (26) : 11-12.
- 長瀬博彦, 2014a. キバラハキリバチ. 多田内修・村尾竜起(編)日本産ハナバチ図鑑, p. 302. 文一総合出版。
- 長瀬博彦, 2014b. クズハキリバチ. 多田内修・村尾竜起(編)日本産ハナバチ図鑑, p. 319. 文一総合出版。
- 根来 尚, 2014. 富山県のハナバチ類. 富山市科学博物館収蔵資料目録, (27), 129pp. 富山市科学博物館。
- 斉藤洋一, 2015. 東京都本土部でキバラハキリバチを採集. 神奈川虫報, (185) : 88.